

令和7年度第2回紫波町中小企業振興会議 議事録

1 会議概要

- (1) 日 時 令和8年2月19日(木) 10時から11時30分
- (2) 場 所 紫波町役場 304・305 会議室
- (3) 出席者等 出席委員 10人
高嶋裕一委員、富岡靖博委員、安藤知行委員、篠村講太委員、
鈴木弘幸委員、瀬川峰雄委員、箱崎浩行委員、熊谷智義委員、
瀧澤義則委員、川村武司委員

事務局

紫波町 産業部長(商工観光課長) 長谷川崇
紫波町 商工観光課副課長 作山文人
紫波町 商工観光課商工観光係長 須川翔太
紫波町 商工観光課商工観光係主任 高橋侑真
紫波町 地域おこし協力隊 本田道也

(4) 経 過

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 議 事

- (1) 重点施策(案)について
- (2) 幹事会委員について

4 その他

次回開催日：令和8年5月22日(金) 10時から11時30分
紫波町役場 304・305 会議室

5 閉 会

2 内容等

会長あいさつ（高嶋会長）

決めなければいけないことがたくさんあります。ギアをあげて色々と考えていかなければいけません。それぞれ事情があるかとは思いますが、紫波町の未来のために建設的なご意見を頂戴できればありがたいです。よろしくお願いします。

重点施策（案）について（高橋）

1. 経営基盤の強化
2. 事業機会拡大と持続的発展に向けた連携強化
3. 新事業、新分野などへの挑戦と循環創出

の3点を重点施策（案）として提案

高嶋会長

私の理解としては、重点施策1というのが直近で取り組まなければならない内容、重点施策2というのが仕組みづくり、重点施策3というのが未来に向けての種づくりということだと考えております。まずは、1について動かしていき少しずつ微調整していくということでのよいのかなと思います。提案いただいた内容について、言葉を分かりやすくですとか、ここを直した方がよいのではないか、あるいはこういうことが抜けているのではないかというご意見がございましたらこの場を出していただければと思います。

安藤委員

経営基盤の強化というのは大きなテーマではないかと思います。経営基盤というとDXのことなどもあると思います。メインは人材の話であるため、この辺の考え方をお聞きしたいです。

事務局

アンケート調査の中で、人材確保以外にも販路拡大等についてもどうしたらよいか悩んでいるという回答があり、大きくとらえて表現しました。

高嶋会長

わかりやすくするにはシンプルに「人材育成」などのワードを経営基盤の前に付けるのがよいのかもしれませんが、このことについて、もしくはこのこと以外についてご意見があればお願いします。

瀬川委員

経営指針についてですが、企業であれば指針があるのは比較的当たり前ではないかと思いますが、指針をどうすり合わせし、連携させていくかが重要だと思うので、そのような文言が必要ではないでしょうか。

事務局

色々な方々から話を伺った際に、指針がないというところもありました。ですので、基本の基が大事だということを理解していただき、企業のベクトルを示していきながら連携をしていきたいと思いますというイメージで記載しました。

瀬川委員

どちらかというところと人材確保もマーケティングも手法が大事になると思うので、大事なところが条例から下がってきて、これはどの部分に該当するのか統一性がないとあちこちに行ってしまう可能性があります。

高嶋会長

条例の文言との関係について、何かございますでしょうか。私は、条例と重点施策の間にキャッチフレーズのようなものがあればどうかと考えていたのですが、いかがでしょうか。

事務局

検討したいと思います。

高嶋会長

個別にではなく、条例の中で行っていると分かるフレーズがあればよいと思います。

熊谷委員

端的に言うと、ここで確認すべきだと思います。条例による会議であるため、なんでこれを作ったのかというところをきちんと考えて、中小企業小規模企業こそが地域経済を引っ張っていく、重要な役割を果たすんだということを確認しないと何をやってもこの会議で何を決めているのかという話になりかねないので、今事務局の言葉で端的に語っていただかないといくら積み上げても本来の目的になかなかたどり着かないのかなと思います。

事務局

条例の目的にそのすべてが表されています。「この条例は、中小企業が地域経済及びまちづくりにおいて重要な役割を果たしていることに鑑み、中小企業の振興の基本となる事項

を定めることにより、中小企業の持続的な発展及び町民生活の向上を図り、もって町の産業の振興に資することを目的とする。」としております。まずは、中小企業の役割というのは重要なものであるということを中心企業自身、それから町で生活している方、普段かわりのない方も含めてここを理解していただきたいという目的がございます。さらに持続的な発展が町の発展につながるということを理解していただき、そこに向けて中小事業者が自発的な努力をしなければならないと後段の方にあります。そこを自発的に動けるようにサポートするのが町であり、振興会議であると思います。そこに向けて具体的に何を取り組んでいったらいいかということは今協議していただいているところでございますが、そのために案として重点施策を提案させていただいております。

高嶋会長

キーワードがいくつか出ていました。小規模事業が地域経済、まちづくりの根幹を成す、持続的な発展、中小企業による自発的な努力、この辺りが重要なキーワードになるかと思えます。仮にキャッチフレーズを作るとすればこの辺りを入れると良いかなと思えますがいかがでしょうか。

熊谷委員

フレーズの手前の話なのですが、確か町内の商工事業者は900位あり、そのうち中小企業が8割を占めています。普段、盛岡に行ったり町外の利用をすることがあるとしても、町内の事業者があつて生活が成り立っているということがかなりあると思うので、町民にはなるべく町内の事業者を使ってほしいということになります。色々な大手のチェーン店にとられてしまう部分もありますが、残ってほしい部分もたくさんあるので町にとって必要なんだということをつかってもらふということがこの条例の大きな目的とされているので、そこを打ち出すキャッチフレーズだと良いのではないかと思います。今回は町が条例を作つて町が絡んでいくという根拠ができたので、色々な支援をしますよ、連携していきましょうという方向性を打ち出す施策のもとにそういうキャッチフレーズが必要で、そこに施策がぶら下がってくるという感じでいいのではないのでしょうか。

高嶋会長

中小企業が自発的な努力を行い、町がそのサポートをするというスタンスではなく、両社が平等に公平に行っていくというニュアンスを少し出したいという趣旨だと理解しました。重要な話ですので、皆様から平等にご意見をいただきたいと思ひます。

富岡副会長

振興条例の観点から考えると、商工会は具体的などところを取り組んできたので特にどこを強化していかなければいけないのかを文章化し、テーマとしていくのか整理していると

ころでした。一つ気になることとして、環境とかエネルギーシフトというのが今回の条例に関係してくるのでしょうか。簡単に言うと、これを掲げられてしまうのは厳しいです。経営基盤の強化が最重要課題であり、余裕が生まれたときには環境に優しい機器に取り替える、設備を導入するということになると思いますが、今はそこまでの余裕はないのかなと思います。

高嶋会長

これから詰めていかなければいけないですし、文言も含めて無理のない範囲でということになるかもしれません。いずれ中長期の話なので、すぐ取り組めるとは限らないという前提で考えていかなければならないと考えておりました。

安藤委員

キャッチフレーズの話は、ご指摘のところをうまく表現できれば良いと思います。エネルギーシフトのところは生産性向上ということだったので、新しいのが出てきたなという感想です。

篠村委員

金融団として連携を図らなければいけないと思います。支援としては一企業として行ってきましたが、条例を作ったということでこれからは町、商工会、金融団が取り組むということであれば、中小企業の経営向上に向けた自主的な取り組みの促進という形を私たちも提案できますし、一緒になって資金繰りの手前の人材の育成などの場を設けるなど何かやってこなかった分野も取り入れなければいけないと分かりました。商工会の事業者のための経営支援の窓口、相談窓口として連携を図れる体制を取り組んでいきたい、事業者さんとのつながりを大切にしていきたいなと思います。

鈴木委員

商工は小さいところが多いため、そこを中心とした施策を一つ大きく打ち上げる、理解してもらって発展していくビジョンであってほしいと思います。エネルギーシフトについては、重点施策にあげるのであればかっこ書きでいいので何をすべきなのかを入れてほしいと思います。

瀬川委員

中小企業が助け合ってってもらいたいですが、商工会のメンバーだけでは難しいかなと、要するに消費者がその気にならないとできないと思います。ワークショップを行って、一般の方に理解してもらうなどが必要なのではないかと思います。何を協力していったらいいのか、最低限の認識をしていただかないといけないと思うので、盛り上げる方法

を一つこの中に取り入れてほしいです。現状把握でもいいけれども、ワークショップなどの勉強会が必要なのではないかと思います。

箱崎委員

もう少し幅を狭めて、的を絞った方がいいのではないかと思います。人材育成が一番メインなものかなと思いますので。住民に対してのPRということで、地元の商店街や企業を使うと町のためにメリットがある、皆さんにも良いことなんだよということを周知する必要があると思います。

熊谷委員

エネルギーシフトについて、確かに唐突感は否めないですが、ひょっとしたら町はこっちの方向に行こうとしているのかと頭に浮かんで、少し前にソフトウェアの会社から紫波町出身の人が帰ってきて会社を立ち上げたという話があったと思いますが、はっきりと計画に謳うような柱がないにしても、例えば食品加工や第6次産業など目星つけて新しい取り組みを謳っておいて、誘致したり人材育成したりすることはなくはないのかなと思いました。

事務局

皆さんの話を聞いていて、環境対策というのはハードルが高い、お金がかかるという部分があるため、根本的なところで生産性向上という言葉使いが良いのかなと思いました。

川村委員

人材確保・育成という課題はアンケートでも出ているので、早急に取り組んでいきたいなと思いますし、中小企業が人材確保できないというのは地域の若い人が残らないということなので地域の産業育成の観点では非常に大事ではないのかなと思います。その中で、中小企業がきちんと計画を持って事業を遂行するというのは非常に大事なことなので、経営指針というのはむしろ経営基盤の強化の方に入るのかなと思いました。エネルギーシフトの話が出ましたが、中小企業というのは新しいことに取り組んでいかななくてはいけなくて、確かにエネルギーというところに皆さん関心がありますし、やっていかなければいけないという意識はありつつも、人材確保・育成という重点項目を決めたらそこに絞って行うべきでないかなと思いました。Y町では理念とか大きいものの中で、町と中小企業と商工会が一緒に行っている一つの例として、地域産業育成お役立ちセンターというものを展開していて、創業の相談窓口がないため、協力しながら今ないことをしていくというのと、フラッグシップでもないですけど、町と中小企業と商工会が一緒に行っているということが一つのワードとしてあればイメージしやすいのではないかと思います。

瀧澤委員

何かをやりたい、何かをしたいといったときに相談できる場所はほしいと思います。一個一個の問題であれば、例えばお金のことであれば銀行に行くということはしていると思いますが、個人では限界があるので、そういった場所はほしいなと思います。テーマがいっぱいあって、全部こなさなきゃいけないことだと思いますが、目の前のことと大きいことが混在していて自分の中でも整理が難しいので、何かに特化してどれかから具体的に決めていった方がよいのではないかと思います。

事務局

キャッチフレーズ、経営基盤の強化という文言、エネルギーシフトというところを生産性向上と修正することで進めていけたら良いのかなと思います。

富岡副会長

人材確保・育成についてどちらが先かと考えると、確保が先なのかなと思います。他に合う言葉があればとも思いますが、育成まではまだいってないかなとも思います。

熊谷委員

ご提案として、重点施策1～3は大きな施策の塊で、その次に小ぶりの施策をたててそこに人材確保・育成を入れて具体的な事業をというようなツリーとつくとスッキリするのではないのでしょうか。頭に人材育成と言わないで経営安定という言葉を使うのが良いのではないのでしょうか。

高嶋会長

重点施策1を経営安定の強化ということにして、その中に人材確保・育成があるのでよいかなと思います。私自身は当初、人材育成というのは企業に入ってからだけではなく、企業に入る前からの育成も入っているのではないかと考えていました。次世代の育成もしていく必要がありますので。ただ、話を聞くと狭い範囲で捉えられてしまうことも考えられますので、経営安定の強化という風にしておけば良いのかなと思いました。キャッチフレーズについては条例の目的にあることを前提に、中小企業と行政の連携というところを強く打ち出せるようなフレーズ、フレーズがあれば住民、消費者に対してアピール力が強いかなと思います。この場でフレーズを考えるのは難しいので委員の皆様にご意見をいただければと思います。具体的にはメール等でやり取りを進め、次回開催日のところで決めていくことになると思います。

今後の進め方と幹事会について（作山副課長）

・委員からの推薦を要望

高嶋会長

第4次紫波町総合計画は令和10年からということで先の話なので、それ以前に現行の第3次紫波町総合計画の検証をやる必要があるのではないかと思います。話し合いができるのは来年の3月頃になるかなと思います。来年度のスケジュールについては、早め早めに動く必要があるのではないかと。そう考えると、5月に振興会議と幹事会を合同開催にすることが考えられるため、柔軟に考えていければと思います。

瀬川委員

振興会議と幹事会のメンバーを変えるということで、幹事会はもっと掘り下げた内容を進めるためかなり大変かなと思います。熊谷さんは幹事会の委員長も務めるということで大変ではないでしょうか。

熊谷委員

確かに、このメンバーにあと3人くらい追加でいいのではという気もしますが。協力するつもりはありますが、やればやるだけ相当な作業量になる。どこまで幹事会に求められているかですが。

高嶋会長

私の考えとしては、まず来年度一度やってみる。その上で、1年ごとに修正を加えるということで良いのではないかと思います。それから構成員については、各団体毎に推薦をいただくということですが、次回までにご推薦いただくということによろしいでしょうか。

熊谷委員

一つ気になったのが、振興会議で公募参加している方もいるので、お二人には幹事会にも入ってもらおうということもあると思うがいかがでしょうか。

高嶋会長

委員の皆様には一律に推薦者を出していただければと思います。

富岡副会長

気になることがありますして、紫波総合高校は地元であり人材確保という点で非常に重要なところですが、存続が危ぶまれており、そのことについてこの会議で進めていくのか、教育委員会で進めていくのか。そこを伺いたいです。

高嶋会長

この会議に教育委員会の人を入れるというのはいかかでしょう。

事務局

対応が必要であることは間違いありませんが、商工サイドでは存続に関してではなく人材確保に関してであり、何か事業を進めるにあたって必要な場合は巻き込んでいきますが、この会議に入れるということはないです。

高嶋会長

それでは時間になりましたので、事務局へお返しいたします。

事務局

次回開催は振興会議、幹事会合同開催ということで5月に開催いたします。